

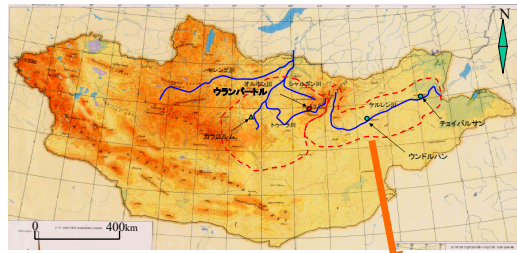
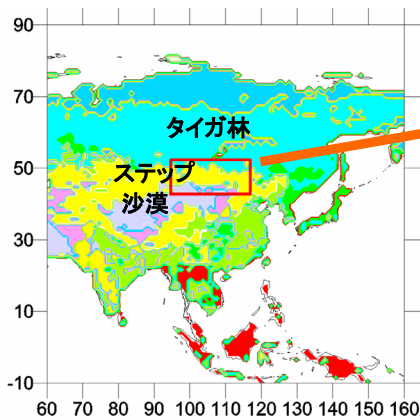
# 北東アジア植生変遷域の水循環と生物・大気圏の相互作用の解明： RAISE Projectの概要

杉田倫明<sup>1</sup>・浅沼順<sup>2</sup>・鞠子茂<sup>3</sup>・辻村真貴<sup>1</sup>・陸旻皎<sup>4</sup>・木村富士男<sup>1</sup>・D. Azzaya<sup>5</sup>・Ts. Adyasuren<sup>6</sup>

- 1 筑波大学・大学院・生命環境科学研究科・地球環境科学専攻
- 2 筑波大学・大学院・生命環境科学研究科・地球環境科学専攻 陸域環境研究センター
- 3 筑波大学・大学院・生命環境科学研究科・構造生物科学専攻
- 4 長岡技術科学大学

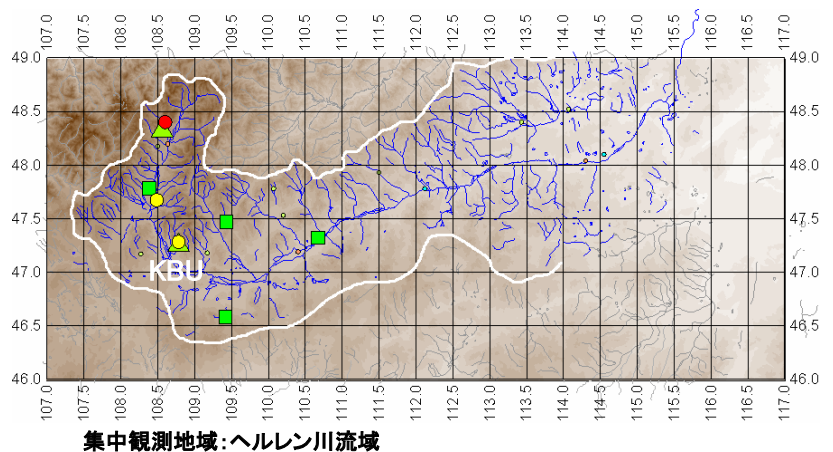
- 5 Institute of Meteorology and Hydrology of Mongolia
- 6 Environmental Education and Research Institute ECO Asia

## 研究対象地域：北東アジア



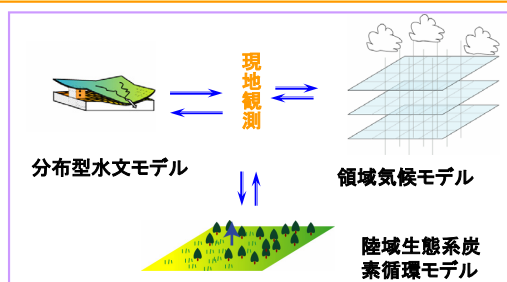
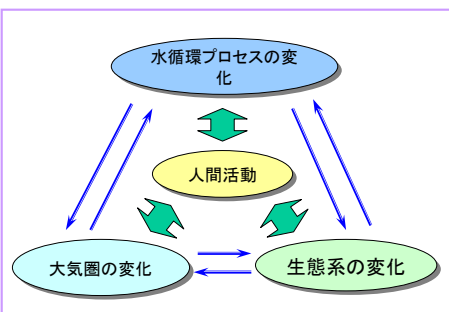
- 特徴：
- ・乾燥半乾燥地帯
  - ・植生変遷域（タイガ林→ステップ→沙漠）

- 外部条件の変化：
- ・近年の気候変化
  - ・冬季～春季の気温上昇
  - ・降水量の減少
  - ・過放牧と砂漠化の危険性



集中観測地域：ヘルレン川流域  
△フラックスステーション 緑色自動気象ステーション 黄色斜面観測サイト

## 目的とアプローチ



- (1) 目的
- ・水循環過程の解明
  - ・生態系・大気圏との相互作用
  - ・将来予測
- (2) アプローチ
- ・観測による現状の把握とモデルパラメータの取得
  - ・モデルによる将来予測へ



## 進捗状況

- 観測：2003年集中観測終了、2004～連続観測継続中
- 解析：概ね完了。3つの国際ワークショップ、1つの国際シンポジウムなどで発表
- 将来予測：進行中

結果の取りまとめ：Journal of Hydrology の特集号編集中